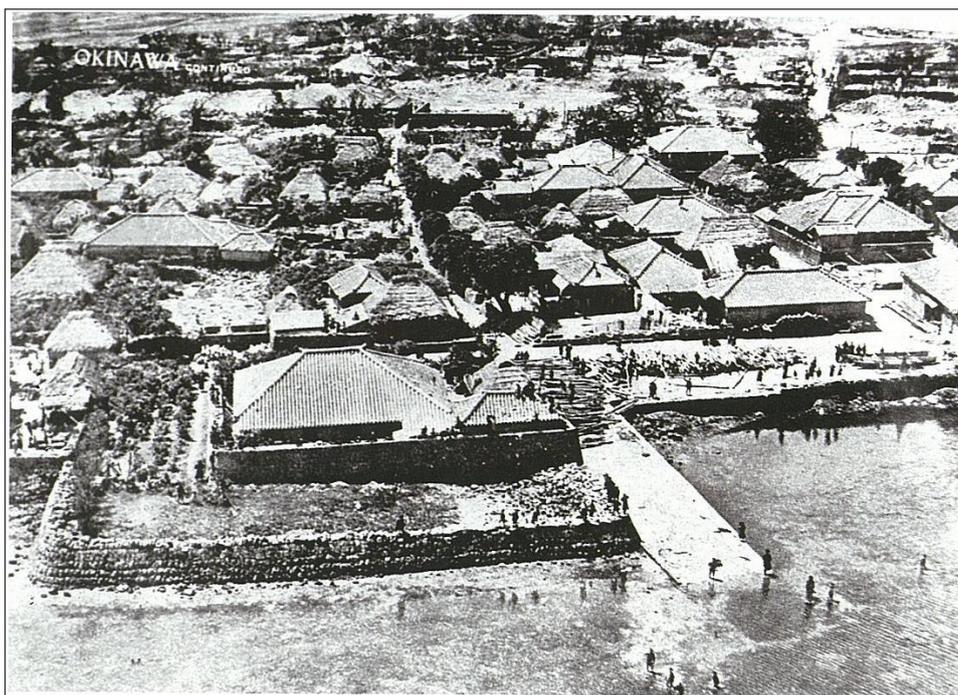


積場跡（ちんばあと）



現在の積場跡があったと思われる場所



山原船（イメージ）

※1945年（昭和20年）積場跡 「泡瀬村創設百周年記念誌」泡瀬復興期成会

ちんばとは、山原からの荷物を積んだ通称山原船と呼ばれる船の寄港地が泡瀬にありました。これら荷物の積み下ろしをした場所を積み場（ちんば）と呼んでいました。

今の漁港の奥の船揚場へと向かうあたりに当時のちんばがあり、三つのちんばに分かれていて、中の津口（現漁港）と西の津口（大正5、6年整備）東の津口（大正末頃整備）とがあったようです。

山原からは木材や炭などが多く運ばれており、これらの中南部への荷卸点として泡瀬は発展し、津口を控えた海岸通には木材・薪炭材業者が十数件も軒を連ね、荷馬車や荷車の出入りも多く、タムンヤー（たきぎを置いておく家）通りとしていつも活気に満ちていたそうです。

現在の沖縄マリーナ周辺が、当時の積場（ちんば）があった場所と思われます。